

NextEra Energy (NEE) 投資戦略レポート - Dominion 統合と金利逆風の交差点

NEE

判定は Hold (目標 94.6 ドル / 現値 85.12 ドル)。19 年連続増配と受注残 33GW の構造優位に対し、市場の織り込み成長は 1.24% と極端に悲観側。Dominion 統合 (破談時 48.3 億ドルの解約金) と金利の霧が晴れるまで、配当を受け取りながら待つ局面と整理。

米国株

公益事業

電力

再生可能エネルギー

高配当

M&A

公開日 2026-06-12

著者 Kekke

分析モデル Claude Fable 5

本レポートは特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資判断は読者ご自身の責任において行ってください。詳細は本文末尾の免責事項をご参照ください。

対象銘柄

NEE (NextEra Energy, Inc./NYSE・公益事業
/電力)

結論

主目的: インカム (配当) ◎ (3~5年) / 総合: Hold / 目標株価 94.6ドル (弱気 71.9~強気 108.5) / 損切りライン 78.86ドル / スイングは待ち

データソース

SEC EDGAR (10-K / 10-Q / 8-K / DEF 14A)、
NextEra Energy IR、EIA、FRB、米財務省、
BLS、IRS、FINRA、Yahoo Finance、EII /
ACP / SEIA

レポート概要

全米最大の再エネ開発会社と規制電力 FPL の両利き企業を分析します。Dominion Energy との統合 (全株式交換・統合後 EPS 成長 9%+ 目標) と金利逆風が交錯する局面で、配当目的の長期保有に適した水準かを検証します。

分析モデル

Claude Fable 5

本資料は情報提供のみを目的とし、投資勧誘・投資助言を行うものではありません。投資判断は読者ご自身の責任で行ってください。なお、本レポートは作成時点のスナップショットであり、公開後の株価・決算・ニュースの変化を反映しません。

規制電力の安定と全米最大の再エネ開発を両輪に持つ NextEra Energy を、Dominion 統合と金利逆風が交錯する 2026 年 6 月時点で分析します。

0. 結論

この章で見えてくること

NextEra Energy の投資判断と、その根拠となる 6 個の論点を 1 行ずつ示します。詳細は §2 以降の各章で検証します。

レポート時点

作成日 2026-06-11

株価基準日 2026-06-10 終値 \$85.12

長期判断

HOLD 対象期間 2~3年

スイング判断

様子見 想定保有 —

本レポートは作成時点のスナップショットです。公開後の株価・決算・ニュースは自動反映されません。投資判断に使う場合は、基準日以降の変化を必ずご確認ください。

中長期見通し

HOLD

確信度 中

目標株価	損切ライン	想定保有
94.60 (弱 気 71.90 ~ 強気 108.50)	78.86	2~3年

配当を受け取りつつフェアバリュアー収斂を待てる水準だが、統合審査と金利の霧が晴れるまで買い増しは急がない

スイング見通し

様子見

2026-06-10 時点

週足ダウントレンド・MA200攻防・空売り
残52週最高で明確なセットアップなし

作成時点の仮説です。現在の有効性は未判定で、公開後の株価・ニュースは反映していません。

本質はインカム（配当）銘柄です。配当目的なら3~5年の長期保有で最適、短期の値幅取りには不向きという整理になります。

業績モメンタム — ガイダンスを4期連続で上限以上に守り切る実行力

直近のQ1決算は調整後1株利益が1.09ドル（前年同期比+10%）**A**と好発進でした。さらに、FY2026通期の利益見通しは当初の3.63~4.00ドルから3.92~4.02ドルへ引き上げ**A**済みで、会社は「上限を目標にする」と明言しています。見通しを保守的に出して上限で着地させる文化が、この会社の業績モメンタムの正体と言えます。

株価とバリュエーション — 市場の織り込みは極端に悲観側

現値85.12ドル**B**（2026-06-10終値）は52週高値98.75ドル**B**から約14%下の水準です。一方で、配当の現在価値から見たフェアバリューは現値を約1割上回ります。市場が株価に織り込む長期成長率は会社計画を大きく下回っており、悲観の修正余地が下値の支えになると考えられます。

構造リスク — 統合・金利・税制の3つが同時進行

リスクは突出しています。以下が同時並行で進行している点を、まずご確認ください。

- Dominion Energy との統合で規制承認が得られず破談になった場合、NEE 側が 48.3 億ドルのリバース解約金を負担する片務的構造 **A** です
- 2026 年 5 月の米 CPI は前年比 +4.25% **A** と再加速し、利下げ観測が消えました。公益株の評価軸である金利は逆風です
- 風力・太陽光の税額控除は期限が区切られ、2028 年以降の新規案件は補助金なしの経済性勝負に移行します
- 空売り残高が 52 週で最高水準に積み上がり、短期の需給も重い状態です

加えて、経営陣のインサイダー買いは直近 6 ヶ月でゼロでした。経営の自信を測るシグナルとしては中立以下と受け止めています。

判定 — Hold (確信度: 中)

論点「4 期連続ガイダンス上限着地 — FPL 規制定安と保守主義文化」と論点「電力需要スーパーサイクルと供給制約下の NEER 構造優位」が positive である一方、論点「金利逆風と債券代替バリュエーションの圧縮」と論点「需給の弱さ — 空売り残 52 週最高とインサイダー買いゼロ」が negative に効いています。さらに論点「Dominion 統合 — 9%+ 成長への賭けと 48.3 億ドルの規制賭金」は成立なら成長加速・破談なら大幅安という双方向のイベントです。したがって、長期の構造的な追い風は認めつつも、統合審査と金利の方向性が確認できるまでは Hold (既存ポジション維持・新規買い増しは急がない) が妥当と考えられます。

この章のまとめ

- 判定: Hold (確信度: 中)、保有期間の目安は 2~3 年
- 長期の追い風 (電力需要・規制定安) と短中期の逆風 (金利・需給・統合審査) のねじれが本件の核心
- 主要論点 6 個のうち positive 2 / neutral 1 / negative 3、総合判定の根拠は §10 で再確認します

目次

0. 結論
1. 銘柄の現在地
2. 業績 — 4 期連続ガイダンス上限着地
3. 業界・競合 — 電力需要スーパーサイクル
4. バリュエーション — 金利逆風と評価圧縮
5. マネジメント — Dominion 統合の賭け
6. マクロ・ニュースフロー
7. テクニカル・需給とスイング戦略
8. シナリオ・反証・モニタリング KPI
9. リスク・カタリスト
10. 投資判断
11. 用語集
12. 参考資料

1. 銘柄の現在地

この章で見えてくること

§0 結論で示した投資判断の前提となる NextEra Energy の事業構造、株価水準、財務健全性を 1 章にまとめて確認します。「規制電力」と「再エネ開発」の 2 本柱という事業構造が、すべての論点の土台になります。

1.1 事業構造 — 規制と競争の「両利き」

NextEra Energy は米フロリダ州の規制電力会社 FPL (Florida Power & Light) と、全米で再生可能エネルギーを開発する NEER (NextEra Energy Resources) の 2 本柱で構成されます。たとえるなら、家賃収入が安定した賃貸物件 (FPL) と、成長中の開発事業 (NEER) を 1 つの会社で持っているような構造です。FY2025 のセグメント純利益は FPL 50.12 億ドル / NEER 29.75 億ドル / 本社ほか -11.52 億ドル ^A で、安定収益源の FPL が利益の過半を占めます (FPL 純利益 50.12 億ドル ^A、NEER 純利益 29.75 億ドル ^A)。そのため、規制の安定性と成長性を 1 枚で評価する必要がある銘柄と言えます。

なお 2026 年 5 月 18 日には、バージニア州の大手電力 Dominion Energy との統合を発表しました。成立すれば米国電力史上最大級の再編であり、本レポートの中心論点になります（詳細は §5）。

現値

85.12 ドル B

時価総額

1,775 億ドル

PER（実績）

21.6倍

PBR

3.21倍

配当利回り

2.93%

NET DEBT/EBITDA

6.2倍

3 年ベータ

0.35倍

ROE

13.1%

主要指標を同業と比べると、PER 21.6 倍 B は規制公益ピア中央値（19.8 倍）よりやや高く、PBR は 3.21 倍 B です。時価総額は 約 1,775 億ドル B と米公益セクター最大で、配当利回りは 2.93% B、増配は 19 年連続 A です。一方、株価変動の市場連動性を示すベータは 0.35 B と低く、値動きの主因が市場全体よりも金利と個別材料にあることを示唆します。

1.2 株価の位置



この 1 年の株価は 安値 67.20 ドル B（2025 年 6 月）から 98.75 ドル（2026 年 5 月）まで上昇したあと、統合発表を境に急反落しました。現値は上昇幅の半分以上を吐き出した位置にあります。したがって、「高値から大きく調整した銘柄」という見た目と、「統合という

不確実性を新たに抱えた銘柄」という実態の両面で捉える必要があります。

1.3 財務健全性

財務健全性スコアは 76/100 (B 評価、公益事業基準) です。収益性 (営業利益率) と成長性 (規制資本の拡大) は満点に近い一方、レバレッジ (Net Debt/EBITDA 6.2 倍 **A**) が弱点となります。借金が大きい体質は公益事業の標準形ですが、金利が上がる局面では弱点が増幅される点に注意が必要です。この弱点は §4 の金利感応度の議論に直結します。

この章のまとめ

- 事業は FPL (規制・安定) と NEER (再エネ開発・成長) の両利き構造で、利益の過半は FPL
- 株価は 52 週高値から約 14% 下、統合発表を境に調整した位置
- 健全性スコア 76/100、弱点はレバレッジ。§2 業績では「保守的ガイダンス文化」を深掘りします

2. 業績 — 4 期連続ガイダンス上限着地 — FPL 規治安定と保守主義文化

この章で見えてくること

§1 で確認した「FPL が利益の過半」という構造を踏まえ、§0 結論で positive と評価した論点「4 期連続ガイダンス上限着地 — FPL 規治安定と保守主義文化」を、通期実績・見通しの修正履歴・料金規制の 3 点から掘り下げます。

FY2025 通期 (Q1 FY2026 補足)

P&L

売上高	274.12 億ドル
営業利益	82.80 億ドル
GAAP 純利益	68.35 億ドル
調整後 EPS	3.71 ドル

Balance Sheet

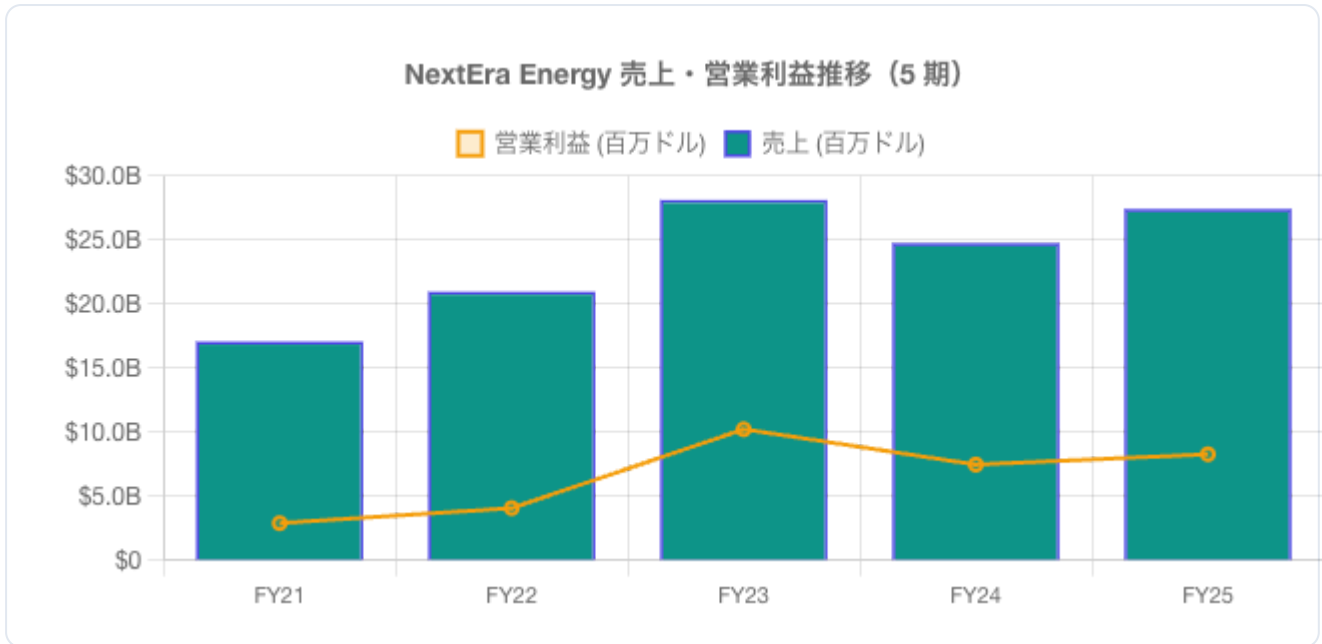
自己資本比率	25.7%
Net Debt / EBITDA	6.2 倍
ネット有利子負債	926.13 億ドル

Cash Flow

営業キャッシュフロー	124.85 億ドル
フリーキャッシュフロー	32.11 億ドル
年間配当	2.27 ドル/株

2.1 FY2025 実績 — 増収増益で見通し上限超え

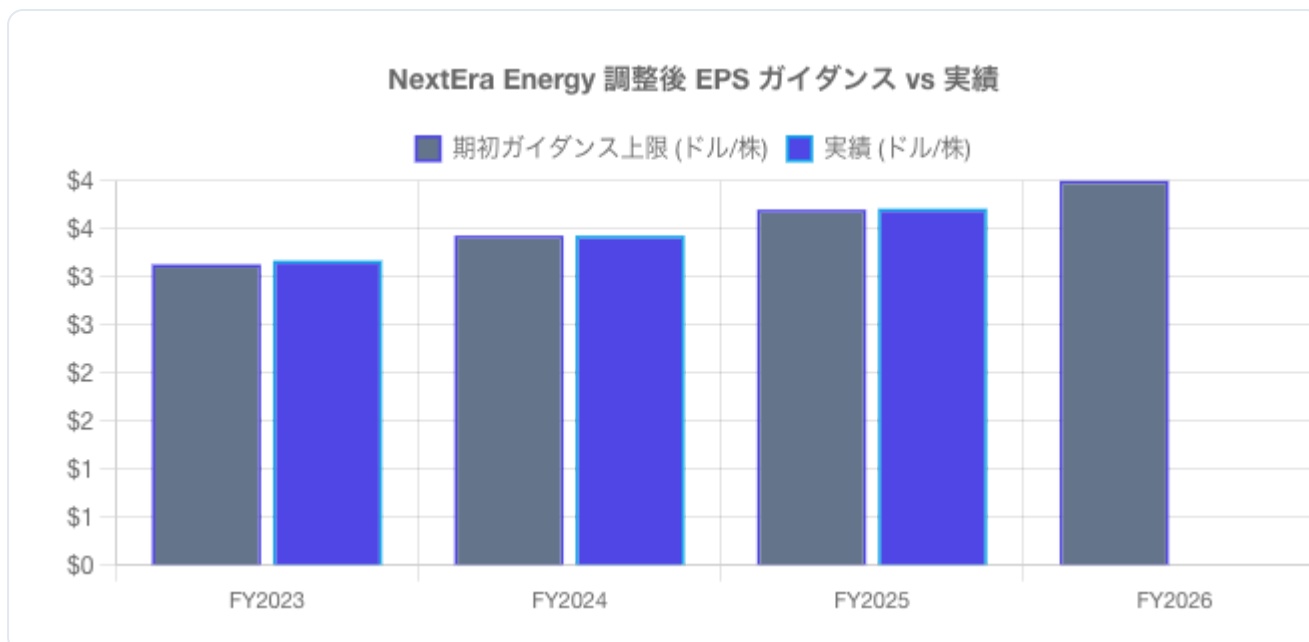
FY2025 通期は売上 274.12 億ドル **A** (前年比 +10.7% **A**)、営業利益 82.80 億ドル **A**、GAAP 純利益 68.35 億ドル **A** でした。営業利益率は 30.2% **A** と主要電力 6 社の中で最高水準であり、規模だけでなく収益の質でも頭一つ抜けています。1 株利益は GAAP ベースで 3.30 ドル **A**、会社が業績管理の軸に置く調整後ベースで 3.71 ドル **A** となりました (提出書類ベースでも 売上 274.12 億ドル **A** ・ 純利益 68.35 億ドル **A** ・ 調整後 EPS 3.71 ドル **A** で一致を確認済みです)。



資本効率性は ROE 13.1% A と公益としては高水準です。キャッシュフローは営業 CF 124.85 億ドル A に対しフリー CF 32.11 億ドル B で、巨額の成長投資を続けながらも現金創出はプラス圏を維持しています。ただし、自己資本比率は 25.7% A、ネット有利子負債は 926.13 億ドル A と借入依存度が高く、この財務体質が §4 で扱う金利感応度の議論につながります。

2.2 「保守的に出して上限で着地」の実績

注目すべきは見通し管理の一貫性です。FY2025 は 見通しレンジ 3.45~3.70 ドルに対し 3.71 ドルと上限超え A で着地しました。これで FY2023 から 3 期連続の上限以上です。さらに長く取ると、2021~2025 年の調整後 EPS 成長は +10.4% / +13.7% / +9.3% / +8.2% / +8.2% と、5 年連続で 6~8% 目標の上限以上 A を達成しています。テストで毎回「8 割取れば合格」と宣言して毎回 9 割取ってくる生徒のような実績であり、見通しの信頼性は同業でも傑出していると言えます。



進行中の FY2026 についても、見通しは 3.92~4.02 ドル **A**（3.92~4.02 ドル **A**、3.92~4.02 ドル **A** で関連書類間の整合も確認済み）へ引き上げ済みで、Q1 時点で GAAP 純利益 21.82 億ドル **A**・調整後利益 22.75 億ドル **A** と順調な滑り出しです。長期では 2032 年まで年率 8% 以上 **A**（単独ベースで 8%+ の年平均成長 **A**）の利益成長を掲げています。

2.3 利益の土台 — FPL の 4 年料金合意

この見通しの再現性を支えるのが規制の安定です。FPL は フロリダ州公益事業委員会が承認した 4 年料金合意（2026 年 +9.45 億ドル / 2027 年 +7.05 億ドル の値上げ、許容 ROE 10.95%） **A** を確保しており、2029 年までの収益認可が見えています。そのうえで 2032 年まで 900~1,000 億ドル **A** の投資計画を進め、規制資本（料金算定の基礎となる資産）は年 8.1% **A** のペースで拡大中です。規制事業は「投資した分だけ規制が利益を認めてくれる」構造のため、投資計画の確度がそのまま利益成長の確度になります。

株主還元も同じ文脈にあります。配当は 2026 年まで年 10% 程度、その後 2028 年まで年 6% の増配方針 **A** が示され、配当性向は 68.8% **A** と増配余力を残します。インカム投資家にとっては、この「増配の予見可能性」が本銘柄の中核的価値と考えられます。

この章のまとめ

- FY2025 は増収増益・見通し上限超え、営業利益率 30.2% は主要 6 社で最高
- 見通しは 4 期連続で上限以上に着地し、FY2026 も上限目標を明言。保守的ガイダンス文化は健在
- FPL の 4 年料金合意と 900~1,000 億ドル投資計画が利益と増配の土台
- §3 業界・競合では、この成長の外部環境である電力需要サイクルを検証します

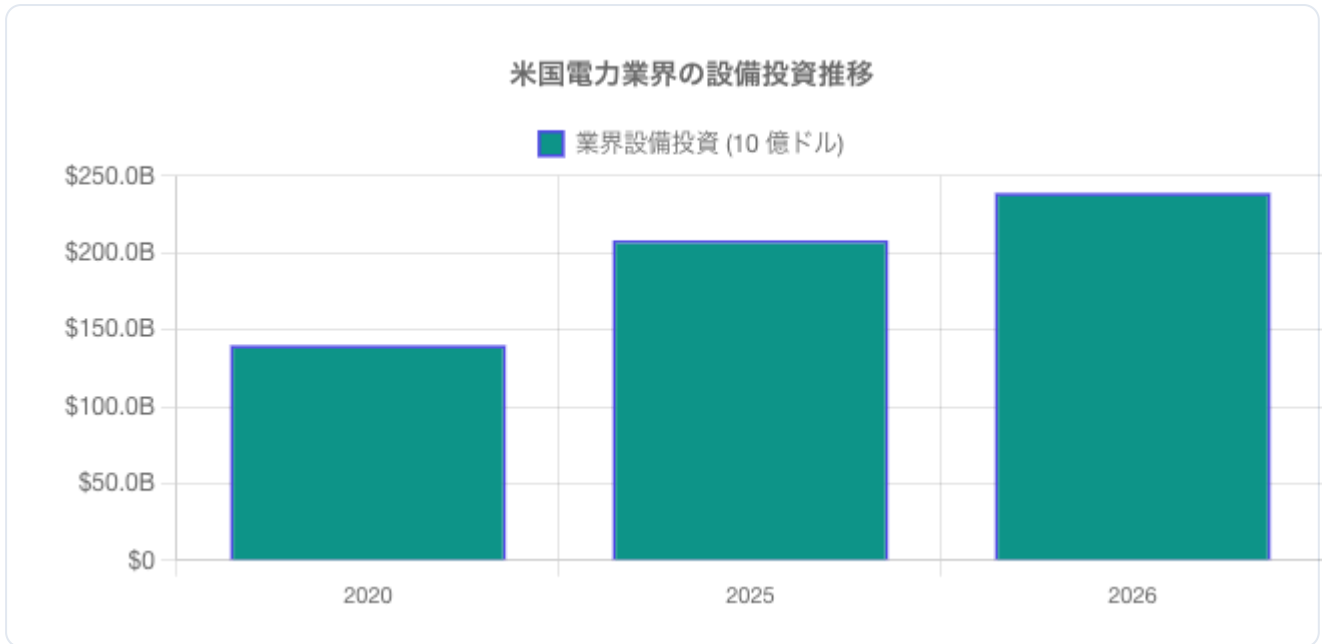
3. 業界・競合 — 電力需要スーパーサイクルと供給制約下の NEER 構造優位

この章で見えてくること

§2 で確認した社内の実行力に対し、本章では外部環境を検証します。§0 結論で最も重要度が高い positive と評価した論点「**電力需要スーパーサイクルと供給制約下の NEER 構造優位**」を、需要・供給・競合の 3 つの面から掘り下げます。

3.1 需要 — 15 年の停滞から「最強の 4 年」へ

米国の電力需要は約 15 年間ほぼ横ばいでしたが、AI データセンターの建設ラッシュで局面が変わりました。政府統計の見通しでは 2026 年 +1.0% **A**、2027 年 +3.0% **A** と「2000 年以降で最も強い 4 年間」の成長が見込まれています。これを受けて業界全体の設備投資も 2025 年 2,080 億ドル **B** から 2026 年計画 2,388 億ドル **B** へ拡大します。電力会社にとっては、十数年ぶりに「作れば売れる」市場が戻ってきた状態です。



3.2 供給 — 太陽光+蓄電池が主役、ただし「列に並ぶだけで4年」

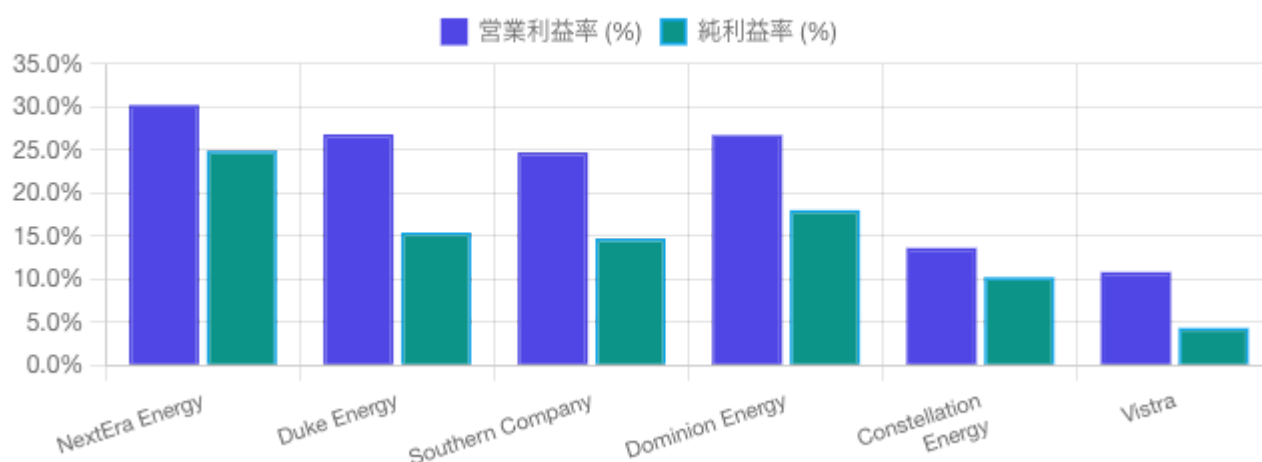
供給側では、新規電源の導入が 2025 年実績 53GW ^A から 2026 年計画 86GW ^A へ過去最高ペースで伸びます。内訳は 太陽光 43.4GW ^A と 蓄電池 24GW ^A が中心で、クリーン電力の導入実績も 2025 年 50.3GW ^B と高水準でした。蓄電池はパック価格が 108 ドル/kWh ^B まで急落し、経済性が一段と改善しています。

しかしながら、誰でも参入できる市場ではありません。送電網への接続を待つ案件は 2,290GW ^A と米国の総発電容量の約 2 倍に積み上がり、接続まで中央値で 4 年超かかります。人気店の予約待ち行列のようなもので、既に席を確保した事業者が圧倒的に有利です。その結果、電力販売契約の価格は カリフォルニアで 20~30 ドル/MWh、その他地域で 40~80 ドル/MWh ^A と売り手優位の上昇傾向が続いています。

3.3 NEE の位置 — 業界導入量の 2~3 割を握る最大手

この供給制約の中で、NEE は機器・用地・許認可を先行確保した最大手として優位に立ちます。受注残は 33GW ^A (四半期として過去最高の追加を含む 33GW ^A、経営陣も 33GW ^A を繰り返し強調) で、開発計画は 2026~2032 年に 76.6~107.6GW ^A に達します。これは業界の年間導入量の 2~3 割に相当する規模です。さらに、データセンター向けには 約 30 ヶ所・60GW 超 ^A の専用ハブ候補 (60GW 超 ^A のパイプライン) を持ち、再エネ以外でも 米商務省の日米貿易合意案件でガス火力 9.5GW ^A に選定されるなど、「あらゆる電源」へ裾野を広げています。規制側の FPL も 900~1,000 億ドル ^A の投資計画で需要増を取り込みます。

主要電力 6 社の利益率比較 (FY2025)



競合と比べても優位は明確です。営業利益率 30.2% **A** は主要 6 社で最高です。一方、評価水準を見ると Duke Energy が 実績 PER 19.8 倍 **B**、Southern が 実績 PER 24.4 倍 **B**、Dominion が 実績 PER 19.8 倍 **B** で、NEE の 21.6 倍は「最高の質に小さめのプレミアム」という位置づけになります。主要 6 社合計に占める NEE の売上シェアは 18.8% **A** まで拡大しました。業界では 2026 年 1 月 7 日に Constellation Energy による Calpine 買収が完了 **A** するなど AI 需要を見据えた再編が連鎖しており、NEE の Dominion 統合 (§5) もこの文脈に位置づけられます。

この章のまとめ

- 電力需要は 2000 年以降で最強の成長局面へ、業界投資も過去最高を更新中
- 系統接続 4 年待ち・2,290GW の行列が参入障壁となり、先行確保した最大手に有利
- NEE は受注残 33GW・開発計画 76.6~107.6GW で業界導入量の 2~3 割を握る
- §4 バリュエーションでは、この成長がなぜ株価に織り込まれていないのかを検証します

4. バリュエーションー金利逆風と債券代替バリュエーションの圧縮

この章で見えてくること

§3 で確認した構造的な追い風にもかかわらず、株価は冴えません。§0 結論で negative と評価した論点「金利逆風と債券代替バリュエーションの圧縮」を軸に、3 つの評価モデルと金利感応度から「いくらが妥当か」を整理します。

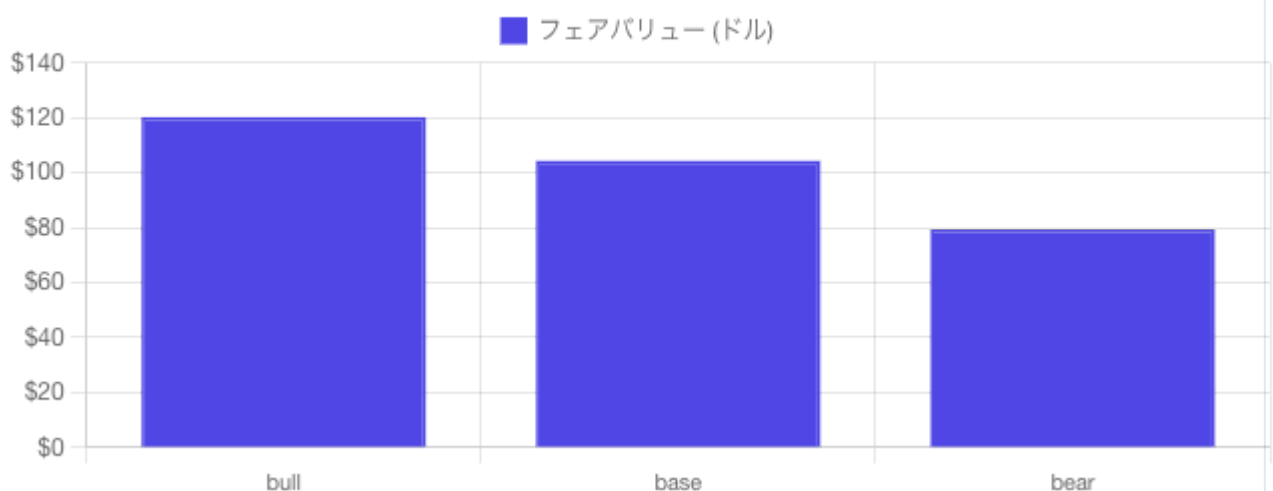
4.1 3つのレンズで見たフェアバリュー

配当目的（インカム）を主軸に、3つのモデルで評価しました。第一に、配当の現在価値で測る配当割引モデルでは、フェアバリューは 94.6 ドル A です。株主資本コスト（投資家が要求する年率リターン）は 7.1% B を用いています。第二に、規制公益の質をピア比較で測る倍率法では、目標 PER 22.0 倍 A（ピア中央値 19.8 倍 B に品質プレミアムを加味）で 87.3 ドル となります。現値の予想 PER は 21.4 倍 B なので、ほぼ妥当圏の評価です。第三に、利益成長の達成価値を割引計算する DCF では 104.3 ドル A（割引率 7.1% B、永久成長率 2.5% A）まで伸びます。

▶ バリュエーション・モデルの前提（クリックで展開）

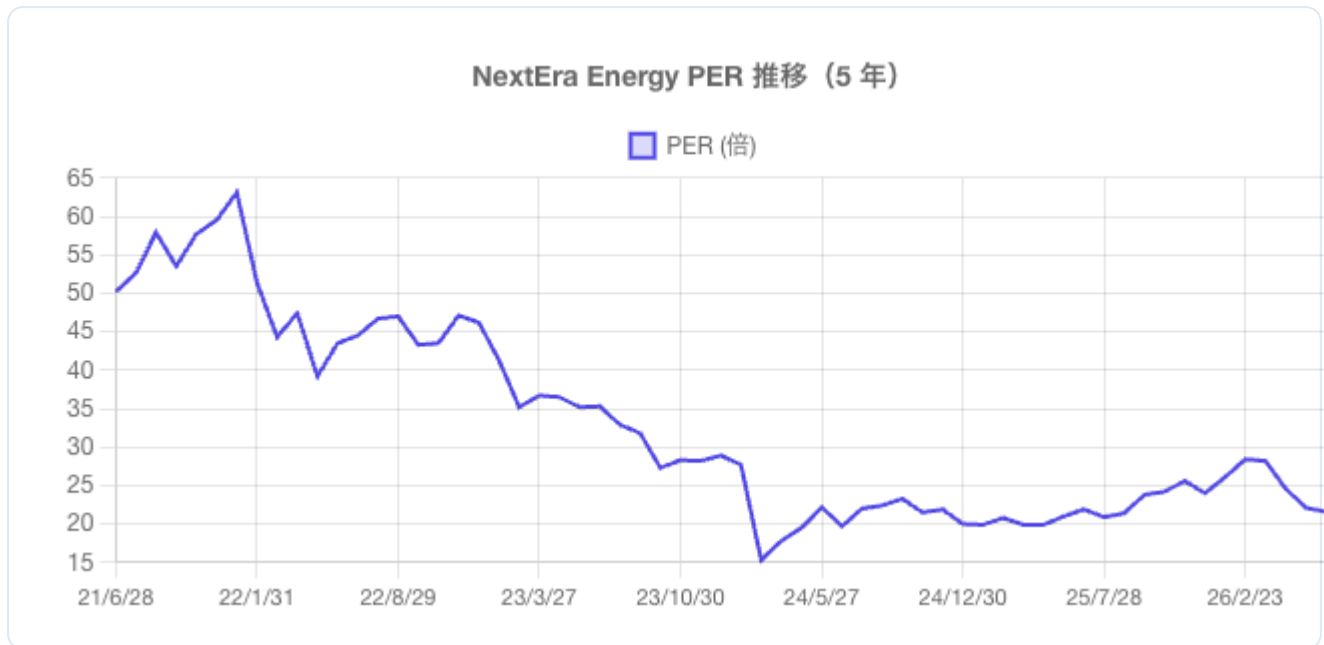
総合の目標株価はインカム軸の 94.6 ドル A（弱気 71.9 ドル B ~強気 108.5 ドル B の確率加重）を採用します。成長軸では弱気 79.3 ドル A ~強気 120.2 ドル A とレンジが広く、どのレンズでも現値は中心値を下回ります。

シナリオ別フェアバリュー（成長レンズ DCF）



4.2 市場の織り込みは「成長ほぼゼロ」

興味深いのは逆算です。現在の株価を正当化する長期成長率を逆 DCF で求めると 1.24% **B** にすぎず、会社計画の年 8% 成長はおろかインフレ率さえ下回ります。配当側から逆算しても、織り込まれた増配率は 4.05% **B** と会社の増配方針（10% → 6%）より低い水準です。つまり、市場は「計画は信じない」という値付けをしており、計画の半分でも実現すれば株価には上方余地がある構図と言えます。

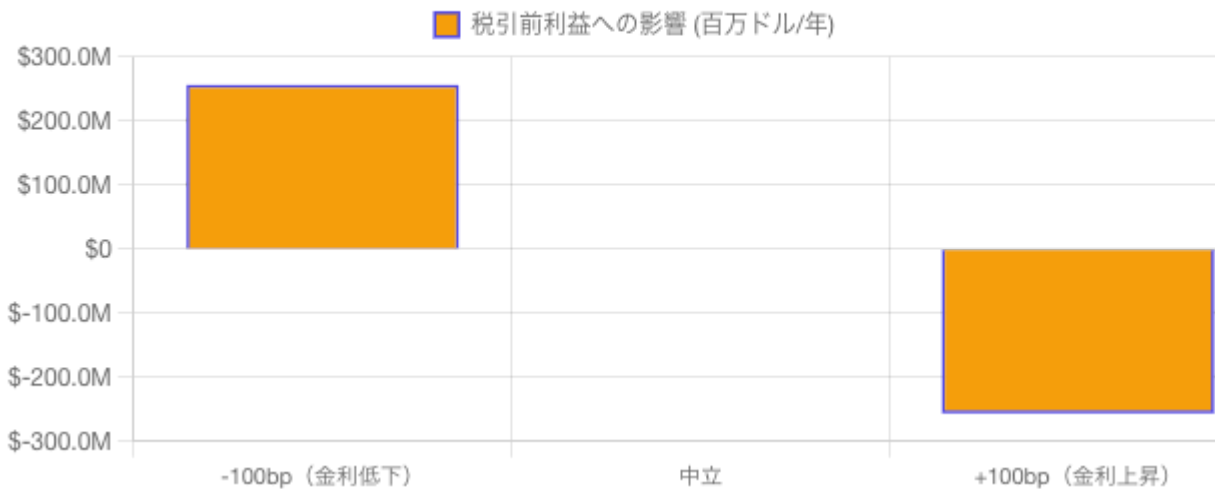


4.3 では、なぜ安いのか — 金利という重石

答えの中心は金利です。10年米国債利回りは 4.55% **A** と配当利回り 2.93% を大きく上回り、「配当株を持つより国債のほうが利回りが高い」状態が続いています。配当株は債券の代わりに買われる性質があるため、金利高は評価倍率を直接押し下げます。試算では割引率が 1% ポイント上がると配当割引モデルの理論株価は約 25% 下がる構造です。

会社の財務にも金利は効きます。開示によれば 金利が 10% 低下した場合のネット負債の時価変動は +43.92 億ドル **A** に達し、変動金利の借入をベースにした試算では 金利 +1% ポイントで年 2.56 億ドル（税引前・ヘッジ前）の利息負担増 **A** となります。さらに 2026～2028 年に 244.3 億ドルの社債等が償還 **A** を迎えるため、高金利が長引くほど借り換えコストが利益を削ります。なお、過去の株主リターンを振り返ると 直近 5 年の累計トータルリターンは 18.2% **A** と S&P 500 を大きく下回る一方、10 年では 299% **A** と市場超えでした。金利サイクルの位置がリターンを左右してきた銘柄であることが分かります。

金利感応度（税引前利益への影響）



この章のまとめ

- フェアバリューは配当軸 94.6 ドル / 倍率軸 87.3 ドル / 成長軸 104.3 ドルで、いずれも現値超え
- 逆算では市場の織り込み成長は 1.24% と極端に悲観側、計画の半分でも上方余地
- ただし金利 +1% ポイントで理論株価 -25% という構造が重石で、評価修正には金利の落ち着きが必要
- §5 では、このバリュエーションを揺らす最大イベントである Dominion 統合を検証します

5. マネジメント・ガバナンス — Dominion 統合 — 9%+ 成長への賭けと 48.3 億ドルの規制賭金

この章で見えてくること

§4 で「金利が落ち着けば評価余地がある」と整理しました。本章では §0 結論で neutral（双方向）と評価した論点「**Dominion 統合 — 9%+ 成長への賭けと 48.3 億ドルの規制賭金**」を、取引条件・経営の実行力・ガバナンスの 3 点から検証します。

5.1 取引条件 — 全株式交換のメガディール

2026年5月18日、NEEはDominion Energyとの統合を発表しました。条件は全株式交換（Dominion 1株 = NEE 0.8138株）、統合後の株主構成はNEE側74.5% / Dominion側25.5% **A** です（取引条件 交換比率 0.8138 **A**、 $0.8138 \text{ **A**} \cdot 74.5\% \text{ **A**}$ は複数の公式書類で一致確認済み）。統合会社は発電容量110GW **A** ・顧客口座約1,000万件の、世界最大級の規制電力会社になります。

経営陣はこの統合で規制資本の成長を年11%程度 **A** へ引き上げ、調整後EPS成長を単独の8%+から9%+ **A**（統合後ベースで2032年まで年9%以上 **A**）へ加速させると説明しています。AIデータセンターの集積地である北バージニアの需要地理を取り込む狙いで、§3で見た需要サイクルとは整合的な一手です。

5.2 関門は規制承認 — 破談コストは片務的

最大の関門は承認手続きです。クローズには連邦3件（FERC・NRC・反トラスト）+州3件+両社株主総会の承認が必要で、目標は発表から12~18ヶ月 **A**（必要承認はHSR / FERC / NRC / バージニア州 SCC / ノースカロライナ州 NCUC / サウスカロライナ州 PSC **A**）。期限は2027年11月15日（最長2028年8月15日まで延長可） **A** です。会社は規制対策としてDominion顧客への料金クレジット22.5億ドル **A** を前出ししました。

ここで見落とせないのは、破談コストの非対称性です。規制起因で統合が成立しなかった場合、解約金を払うのは買い手のNEE側で、その額は48.3億ドル（1株あたり約2.3ドル）に達します。手付金を買い手だけが積んでいる構図であり、電気料金への政治的反発が強まった場合の下振れはNEE株主が負うことになります。

5.3 実行力とガバナンス — 統合を任せられる経営か

経営の実行力は§2で見たとおり折り紙付きです。CEOのJohn Ketchum氏は在任4年 **A** ・在籍22年の生え抜きで、自社株412,689株 **A** を保有します。報酬設計はCEO報酬の90%が業績連動 **A** で、評価指標は調整後EPS成長と相対ROEです。つまり§2の見通し達成と報酬が直結しています。実績連動も機能しており、FY2025の年次賞与は目標比189%で支給 **A** される一方、過去の長期インセンティブでは株価劣後を理由とした減額修正も発動しました。報酬総額は2,419万ドル **A** です。

取締役会は12名中11名（91.7%）が独立取締役 **A** で、M&A・リスク管理の経験者を厚く配置しています。Gulf Power買収（2019年）で規制資産を統合した実績もあり、統合の実務能力は業界トップ級と考えられます。ただし、留意点もあります。2024~2026年にCFO・NEER CEO・FPL CEOの交代が集中したこと、そして2025年に「Real Zero」脱炭素目標を撤回 **A** し政策環境に合わせて旗を下ろしたことです。前者は計画的な世代交代と説明されていますが、統合という大仕事の最中の体制変更はリスク要因として監視が必要でしょう。

この章のまとめ

- 統合は全株式交換・NEE 74.5% 主導で、成立すれば EPS 成長 9%+ へ加速する設計
- ただし承認 6 件 + 株主総会が条件で、規制起因の破談時は NEE が 48.3 億ドルを負担する片務構造
- 経営の実行力・報酬連動・取締役会の独立性は高評価、経営陣交代の集中は監視点
- §6 では、この統合と株価を取り巻くマクロ・ニュース環境を確認します

6. マクロ・ニュースフロー

この章で見えてくること

§4 の金利議論と §5 の統合審査に直結するマクロ要因とニュースを、論点に寄与するものだけ厳選して確認します。

6.1 マクロ環境 — 利下げ観測の消失

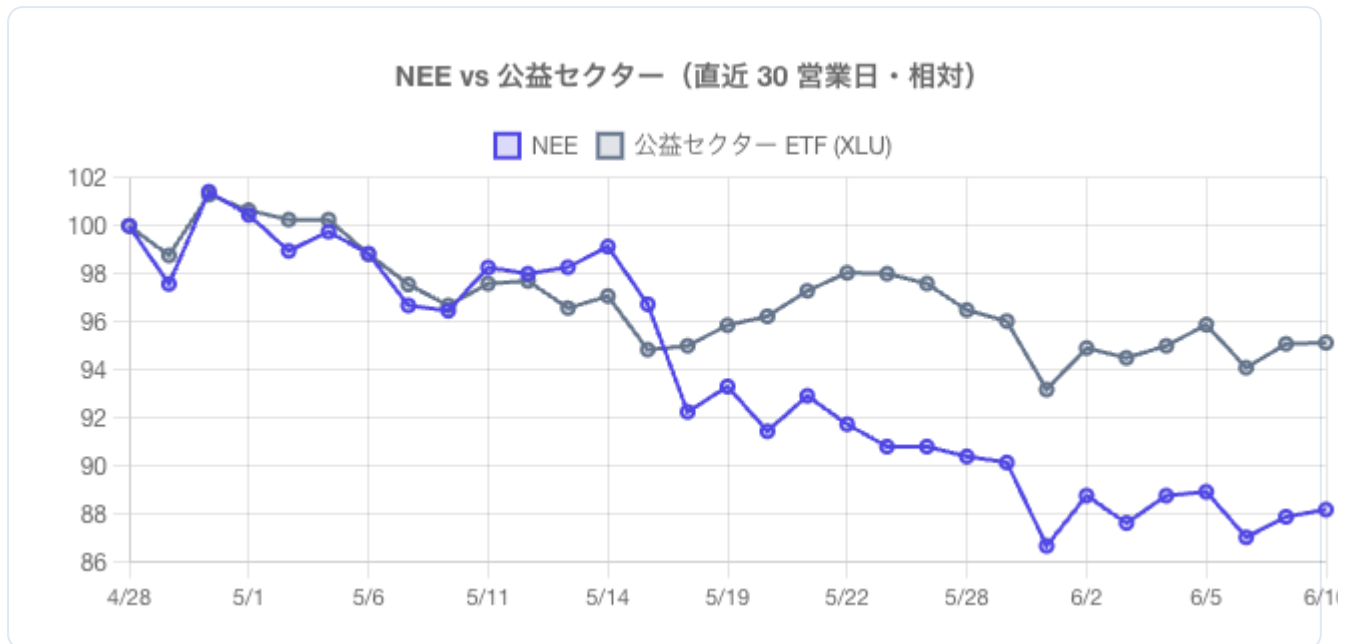
物価は再加速しています。5 月の米 CPI が 4% を超えたとの報道 [B](#) のとおり、公式統計では前年比 +4.25% でした。これを受けて政策金利は 誘導目標レンジ中央値 3.625% [A](#) で据え置かれたまま利上げ観測すら浮上しており、§4 で見た「金利の重石」は当面残る前提で考えるべきでしょう。6 月 16~17 日の FOMC（金利見通し公表回）が直近最大の外部イベントです。

一方、燃料価格の変動は本銘柄には効きにくい構造です。FPL は燃料費を料金に転嫁でき、NEER の市場リスクも 商品関連の 1 日あたり想定最大損失は約 8,300 万ドル [A](#) とヘッジで抑制されています。原油高そのものより、原油高がインフレと金利を押し上げる間接経路が本質的なリスクです。

6.2 ニュースフロー — 統合・税制・季節要因

直近 30 日の報道で論点に効くものは 3 系統です。第一に統合関連で、「668 億ドル規模の買収」と報じた発表時報道 [B](#) 以降、「最大の関門は規制当局」とする分析報道 [B](#) が続いており、市場の注目が承認手続きに集中していることが分かります。第二に税制で、[風力・太](#)

陽光税額控除を制限する政権運用を連邦地裁が無効と判断したとの報道 [B](#) があり、確定すれば §9 で扱う税制リスクが緩和する可能性があります。第三に季節要因で、2026 年の大西洋ハリケーンシーズンは平年比で低調との予報 [B](#) が出ており、フロリダ電力会社にとっては復旧コストリスクが相対的に軽い年になりそうです。



株価の相対位置も確認しておきます。直近 30 営業日の NEE はセクター指数に対して [6.94% ポイントの劣後 B](#) となりました。公益セクター全体の地合いではなく、統合発表という個別材料が下げの主因であることを示しています。

この章のまとめ

- CPI 4% 台への再加速で利下げ観測が消失、6 月 FOMC が直近最大のマクロイベント
- 報道の焦点は統合の規制承認に集中、税額控除の司法判断は緩和材料になり得る
- セクター対比 -6.94pp の劣後は個別材料由来
- §7 では、この地合いを織り込んだテクニカル・需給と短期の立ち回りを整理します

7. テクニカル・需給とスイング戦略

この章で見えてくること

§6 で確認した「個別材料による劣後」を、チャートと需給データで具体化します。短期売買の観点では、いま仕掛けるべき局面かどうかを判定します。



7.1 テクニカル – 200 日線の攻防

日足は方向感のないレンジ、週足は下落基調です。現値 85.12 ドルは 200 日移動平均 85.43 ドル **B** とほぼ重なる位置にあり、長期トレンドの分水嶺で攻防しています。下値は第 1 サポート 83.57 ドル **B**、その下に 2025 年後半に 3 回反発した第 2 サポート 78.86 ドル **B** が控えます。上値は 3 回反落している 86.99 ドル **B**、その上は 94.44 ドル **B** が壁です。つまり、83~87 ドルの持ち合いをどちらに抜けるかを待つ局面と言えます。

7.2 需給 – 売り圧力のピークを通過したかが焦点

需給は弱めです。統合発表日には 年間最大の出来高 (平常時の 4.49 倍) **B** を伴う急落が発生しました。株式交換の発表後は「買収先を買って買収元を売る」裁定取引の売りが出やすく、実際に空売り残高は 前月比 +11.1% **A** で 52 週最高に積み上がっています。機関投資家の保有比率も 前期差 -2.51% ポイント **A** と減少側でした。総合の需給スコアは 45/100 **A** で、中立やや弱めの評価です。

そのため、短期のスイング売買は「待ち」が結論になります。週足が下向きのまま、明確な反転シグナルが出ていないためです。以下のプランはあくまで 2026-06-10 時点の目安であり、市況の変化により随時無効になります。

スイング戦略

様子見

2026-06-10 時点

作成時点の仮説です。現在の有効性は未判定で、公開後の株価・ニュースは反映していません。

現時点でスイングの妙味は限定的です（週足ダウントレンド・MA200攻防・空売り残52週最高で明確なセットアップなし）。新規のエントリー水準は提示しません。

長期保有の管理水準としては、第2サポートと同値の損切りライン 78.86ドル **B** を割り込んだ場合、配当を待つ前提そのものを見直すシグナルと位置づけます。

この章のまとめ

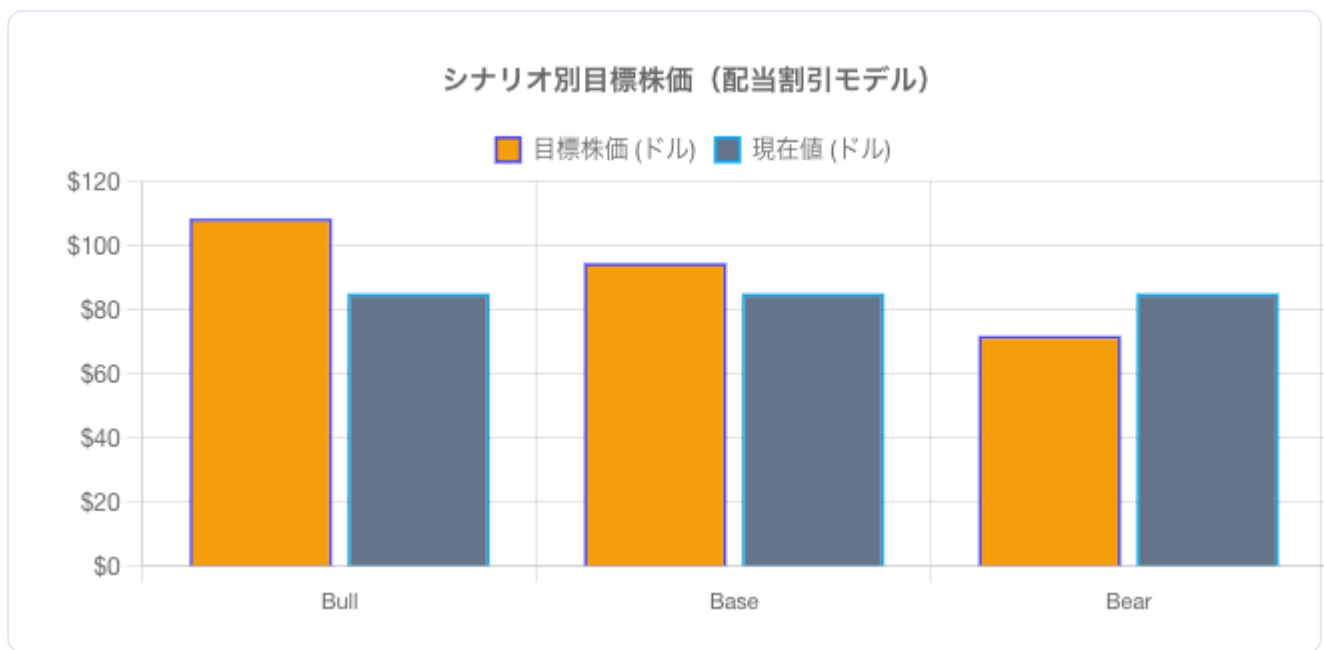
- 200日線で攻防中、83~87ドルの持ち合い放れ待ち
- 空売り残52週最高 + 裁定売りで需給は重く、スイングは「待ち」
- 長期目線の管理ラインは78.86ドル
- §8では、判定が変わる条件をシナリオと反証リストで体系化します

8. シナリオ・反証・モニタリング KPI

この章で見えてくること

§2~§7で検証した論点を3つのシナリオに織り込み、どの事実が出たら判断を変えるか（反証条件）と、何を監視すればよいか（KPI）をまとめます。

8.13 シナリオと目標株価



強気 (Bull)

26%

108.5

中央 (Base)

58%

94.6

弱気 (Bear)

16%

71.9

中心シナリオ（確率 58%）は「統合審査は時間をかけて進み、金利は高止まり」で、目標は配当割引モデルの 94.6 ドルです。強気シナリオ（26%）は統合承認の順調な進展とインフレ鎮静が重なるケースで 108.5 ドル、弱気シナリオ（16%）は統合破談と利上げ再開が重なるケースで 71.9 ドルとなります。確率加重の期待値は 94.6 ドル **A**（現値比 +11.1%）です。上下の非対称性は小さく、だからこそ「急いで買う必要はないが、売る理由もない」という Hold の判定につながります。

8.2 反証ボード – 判断を覆す事実セット

事実	関連論点	出現確率 (%)	影響度
VA SCC が統合を否認または Burdensome Condition 付き承認とし、規制起因破談でリバース解約金 48.3 億ドルを負担する	Dominion 統合 – 9%+ 成長への賭けと 48.3 億ドルの規制賭金	20	target 94.6 → 71.9 ドル
CPI 4% 台が定着し FOMC が利上げを再開、米 10 年債が 5% を超えて定着する	金利逆風と債券代替バリュエーションの圧縮、需給の弱さ – 空売り残 52 週最高とインサイダー買いゼロ	25	DDM 割引率 +50bp 相当
FY2026 調整後 EPS ガイダンス 3.92~4.02 ドルが下方修正され、保守的ガイダンス文化の前提が崩れる	4 期連続ガイダンス上限着地 – FPL 規制安定と保守主義文化、電力需要スーパーサイクルと供給制約下の NEER 構造優位	10	PER ディレーティング
AI 投資サイクル反転でデータセンター電力需要が下振れ、ハブ 60GW 超のパイプラインに解約が発生する	電力需要スーパーサイクルと供給制約下の NEER 構造優位	15	growth レンズ 104.3 → 90 ドル割れ
BOC 通過案件への IRS 追加規制または司法判断の反転で 2027 年以降の NEER 案件 IRR が低下する	税額控除の構造転換 – 2028 年以降は補助金なしの経済性勝負	15	NEER 成長価値の毀損

投資判断を覆す事実セット

このうち発生確率と影響の積が最も大きいのは金利シナリオです。CPI が 4% 台に定着して 10 年債利回りが 5% を超えれば、フェアバリュー自体が切り下がります。次点が統合の規制承認で、バージニア州の審査が政治化した場合は §5 で見た解約金リスクが現実味を帯びます。

8.3 モニタリング KPI

NEER バックログ 33 GW A	米 10 年債利回り 4.55% A	空売り残 前月比 11.1%
FY2026 ガイダンス 3.92-4.02 USD/share A	セクター相対 (30 営業日) -6.94 pp	需給スコア 45 pt

監視の優先順位は、(1) 四半期ごとの受注残（33GW 割れは需要サイクル論点の警告）、(2) 週次の 10 年債利回り（5% 超で再評価）、(3) 月次の空売り残（増勢続落なら需給底入れは遠い）、の順です。それぞれの閾値を超えたときに「何を見直すか」は §10 の判定根拠と対応させています。

この章のまとめ

- 期待値 94.6 ドル (+11.1%)、強気 108.5 / 弱気 71.9 ドルの確率加重
- 最警戒の反証は「CPI 定着 → 10 年債 5% 超え」と「統合審査の政治化」
- 監視は受注残・金利・空売り残の 3 点セット
- §9 では、これらを時系列のカタリストとして並べます

9. リスク・カタリスト

この章で見えてくること

§8 の反証条件を、向こう 30~90 日の短期イベントと中長期の構造リスクに分けて時系列で整理します。

9.1 短期カタリスト（30~90 日）

2026-06-16

FOMC 6 月会合（~6/17）

利上げ織り込み下の金利判断。タカ派化なら公益株バリュエーションの逆風が強まる

2026-07-04

風力・太陽光税額控除の建設開始（BOC）締切（OBBBA / IRS Notice 2025-42）

BOC 確保が NEER の 2028 年以降パイプライン経済性の分水嶺。連邦地裁判断（6/8 報道）の帰趨で運用が変わる可能性

2026-07-31

Q2 FY2026 決算発表（7 月下旬見込み、日程未確定）

FY2026 調整後 EPS 3.92~4.02 ドル『上限目標』の進捗と BOC 締切通過後の初コメント

2026-09-30

Dominion 統合の S-4 / 共同委任状提出 (2026 年 Q3 目標)

統合の最初の正式関門。提出遅延は規制パス全体の後ずれシグナル

各イベントの NEE への影響経路を整理します。

- **2026-06-16/17 FOMC:** 金利見通し (ドット) が上方シフトすれば §4 の評価圧縮が直撃します。公益株全体の地合いを決める最重要イベントです
- **2026-07-04 税額控除の着工期限:** 風力・太陽光の税額控除を受けるには 2026 年 7 月 4 日までの建設開始が必要 **A** という分水嶺です (マクロ統計側の整理では 着工期限 2026 年 7 月 5 日 **A** と暦日解釈に 1 日の差)。NEE は 2029 年分まで用地・許認可を確保済みと表明しており、通過すれば不確実性の一つが外れます
- **2026 年 7 月下旬 Q2 決算:** ガイダンス上限目標の進捗確認と、期限通過後の経営陣コメントが焦点になります
- **2026 年 Q3 統合書類 (S-4) の提出:** 統合手続きの最初の正式関門で、遅延すれば審査全体の後ずれシグナルです

Q2 FY2026 決算

2026-07 下旬 (日程未確定)

ガイダンス上限目標の進捗と BOC 期限通過後の初コメントを確認

2026-07-04

風力・太陽光税額控除の建設開始 (BOC) 期限。通過すれば 2027 年末運開分までの案件の政策不確実性が一つ外れます。

高

9.2 中長期の構造リスク

2026-12-31

NEE・Dominion 両社株主総会 (2026 年 Q4 目標)

統合承認投票。賛成率が規制審査の政治的空氣の先行指標

2027-06-30

規制承認 6 件の審査 (HSR・FERC・NRC・VA SCC・NCUC・SC PSC、2027 年にかけて)

Burdensome Condition なしの取得が条件。承認条件が重いほどシナジー目減り。規制起因破談時は NEE が 48.3 億ドルのリバース解約金を負担

2027-09-30

Dominion 統合クローズ目標 (発表から 12~18 ヶ月=2027 年後半)

成立なら EPS 即時アクリーティブ + 2032 年まで年 9%+ 成長目標の統合会社が誕生

2027-11-15

合併契約の外側期限（規制未充足時は 2028-08-15 まで延長可）

期限接近が裁定スプレッド・ボラの源泉。延長発動は審査難航のシグナル

2027-12-31

風力・太陽光 45Y/48E 税額控除の運開締切（BOC 未確保案件）

2028 年以降の NEER 案件は補助金なしの経済性勝負へ。PPA 価格転嫁力が検証点

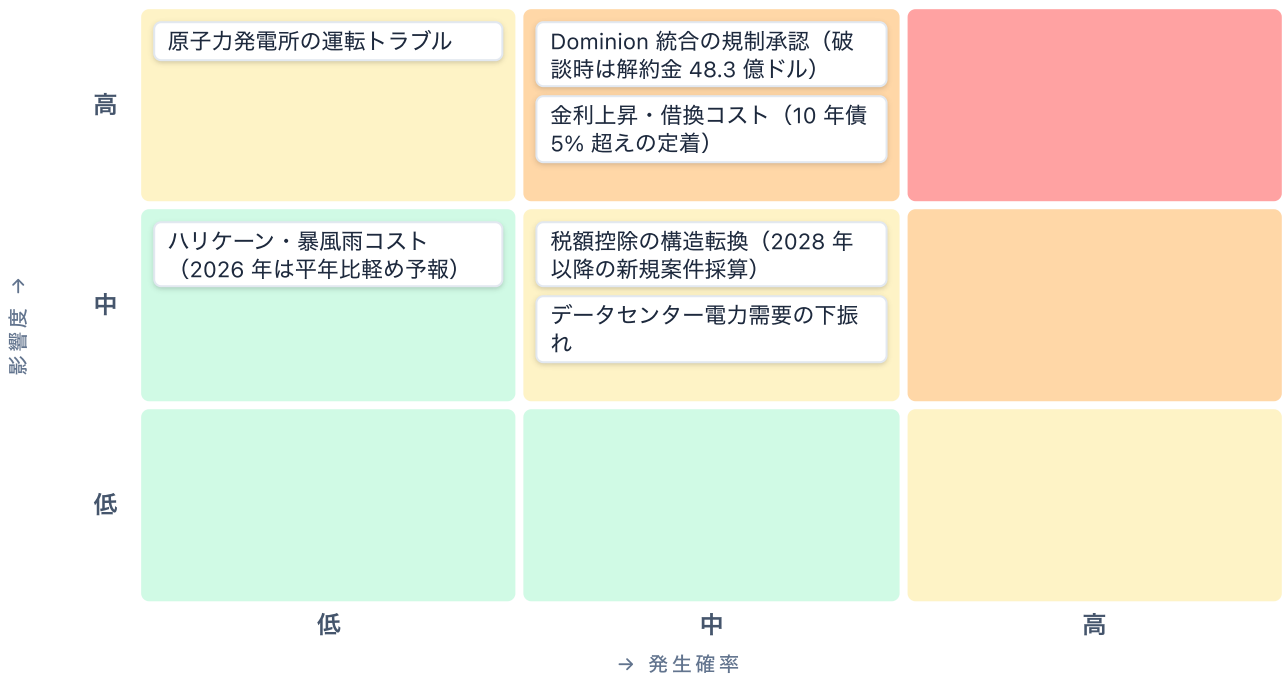
2028-12-31

FPL SoBRA 申請（2028-2029 年分） / Duane Arnold 原発再稼働（2028-2029）

4 年料金和解後半の追加回収と原子力実行力の試金石。規制資本成長の持続性を左右

各リスクの影響経路と規模感は以下のとおりです。

- **統合の規制承認:** §5 で詳述したとおり、破談時は解約金 48.3 億ドルと成長シナリオの巻き戻しが重なります。本レポートの弱気シナリオ（71.9 ドル）の主因です
- **税制の構造転換:** 風力・太陽光の税額控除は 2027 年末運開が原則締切 **A** となり、国税庁の通達で着工認定も厳格化（5% 支出による認定は原則廃止、物理的工事の開始が必須）**A** されました。この政策転換リスクはすでに顕在化中 **A** で、2028 年以降の新規案件は補助金なしの採算が試されます
- **資金調達・金利:** FY2025 の GAAP 減益の主因は金利・ヘッジ要因であり、調達コストの上昇リスクは顕在化中 **A** です。§4 の償還スケジュールと併せて、長期金利 5% 超えが最大の構造逆風になります
- **ハリケーン・原子力:** フロリダの暴風雨復旧コスト **A** と 原子力発電所の運転リスク **A** は、発生確率は読めないものの常時監視が必要な定常リスクです



リスクを緩和する側の材料

保守的な業績見通し文化は 4 期連続で上限以上の着地という実績に裏づけられており、FY2026 も上限目標を明言しています。

FPL の 4 年料金合意が 2029 年までの収益認可を固めるため、規制側の下振れは限定的です。受注残 33GW と 2029 年分まで確保済みの用地・許認可が、税制転換後の移行期間も成長の見える化を支えます。

さらに、市場が織り込む長期成長は 1.24% と極端に悲観側であり、統合承認と金利低下のどちらか一方が確認できるだけでも評価修正の余地が生まれます。

リスクを増幅する側の材料

CPI の 4% 台再加速で利下げ観測が消え、公益株の評価軸である金利は逆風が続きます。2026~2028 年に 244.3 億ドルの償還を抱える財務体質では、高金利の長期化がそのまま利益を削ります。

Dominion 統合は規制起因の破談時に NEE 側だけが 48.3 億ドルを負担する片務構造で、バージニア州の料金政治が審査を長期化させる懸念も残ります。

加えて空売り残高は 52 週最高、経営陣の自社株買い増しはゼロと需給・センチメントも弱く、好材料が確認されるまで上値の重い展開が想定されます。

この章のまとめ

- 短期は 6 月 FOMC → 7 月の税制期限 → Q2 決算 → S-4 提出の順にイベントが続く
- 中長期の最重要リスクは統合審査と金利、次いで 2028 年以降の税制転換
- 季節リスク（ハリケーン）は今年は平年比軽め
- §10 で、これらをすべて踏まえた最終判断を確認します

10. 投資判断

この章で見えてくること

§2～§9 の論点検証を投資目的別に集約し、§0 で示した判定を最終確認します。ご自身の投資目的に当てはめてお読みください。

投資目的別の適性

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとこと
グロース	○	5年以上	\$104.30 (DCF)	調整後 EPS CAGR 8%+ (統合成立なら 9%+) の達成価値は equity DCF で 104.3 ドル。逆 DCF の織り込み成長 1.24% との期待ギャップが大きく、5 年以上の保有なら成長実現の取り分が厚い
インカム (配当) 主目的	◎	3～5年	\$94.60 (配当割引)	19 年連続増配・配当成長ガイダンス (2026 年まで約 10%/年 → 2028 年まで 6%/年)・利回り 2.93%。現値は DDM フェアバリュー比約 1 割下で、配当を受け取りながら収斂を待てる
バリュー	△	6ヶ月～3年	—	PER 21.6 倍はピア中央値 19.8 倍より高く古典的割安株ではない。逆 DCF の極端な悲観織り込みが解ける局面でのみバリュー的妙味が生じる条件付き
クオリティ・ディフェンシブ	○	3～5年	\$87.30 (マルチプル)	規制資本×許容 ROE 10.95% で利益が再現的に決まる FPL が利益の過半。3 年ベータ 0.35 と低い。ただし Net Debt/EBITDA 6.2 倍のレバレッジが減点で、フェアバリューは現値近傍

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとつこと
イベント・短期	△	数日～6ヶ月	—	Dominion 統合はイベントだがクローズまで12～18ヶ月の長丁場で、規制承認6件の成否を短期に賭けるリスクアービトラージには確度が不足。FOMC・BOC期限など短期イベントはむしろ逆風側

5つの投資目的レンズごとの適性は次のとおりです。インカム（配当）目的は最適（◎）です。19年連続増配と2028年までの増配方針が明確で、フェアバリュー94.6ドルに対し約1割安い現値で配当を受け取りながら待てる位置にあります。想定保有は3～5年です。クオリティ・ディフェンシブ目的は妙味あり（○）で、規制で利益が守られる事業の質は高いものの、レバレッジの高さが満点を阻みます。グロース目的も妙味あり（○）です。年8～9%の利益成長が実現すれば成長軸のフェアバリュー104.3ドルが視野に入りますが、回収には5年以上の時間軸が必要でしょう。バリュー目的は条件付き（△）です。PER21.6倍はピアより高く古典的な割安株ではないため、「悲観織り込みの修正」という条件が満たされる局面に限られます。イベント・短期目的も条件付き（△）で、統合イベントはクローズまで12～18ヶ月の長丁場のうえ、§7のとおり短期の需給が重いためです。

中長期見通し

HOLD

確信度 中

目標株価	損切りライン	想定保有
94.60 (弱)	78.86	2～3年
気 71.90		
～ 強気		
108.50)		

配当を受け取りつつフェアバリュー収斂を待てる水準だが、統合審査と金利の霧が晴れるまで買い増しは急がない

スイング見通し

様子見

2026-06-10 時点

週足ダウントレンド・MA200攻防・空売り
残52週最高で明確なセットアップなし

作成時点の仮説です。現在の有効性は未判定で、公開後の株価・ニュースは反映していません。

あくまで主軸は長期（インカム）の判断であり、スイングの「待ち」は短期の目安にすぎません。目標株価94.6ドル・損切りライン78.86ドル（リワード・リスク比1.50）という管理水準のもと、§8の監視KPIに変化が出るまでは配当を受け取りながら保有を続ける、というのが本レポートの結論です。

判定 Hold 確信度: 中	目標株価 94.6 ドル 現値比 +11.1%	損切りライン 78.86 ドル 現値比 -7.4%
-----------------------------	--------------------------------------	--

リワード・リスク比 1.50 上値余地と下値リスクの比	想定保有期間 2~3 年 インカム主軸	スイング判定 待ち 2026-06-10 時点
--	----------------------------------	--------------------------------------

強気 (Bull) 26%

108.5 ドル
+27.5%

統合承認が順調に進展し、インフレ鎮静で利下げ再開

中央 (Base) 58%

94.6 ドル
+11.1%

統合審査は期限内に決着も時間を要し、金利は高止まり

弱気 (Bear) 16%

71.9 ドル
-15.5%

規制起因の統合破談（解約金 48.3 億ドル）と利上げ再開

- ✓ **NEER 受注残の維持**（四半期。33GW 割れは需要論点の警告、37GW 超で進行確認）
- ! **米 10 年債利回り**（週次。5.0% 超の定着でフェアバリュー自体を再計算）
- ! **空売り残高の増減**（月次。前月比 +15% 超は需給悪化の継続シグナル）
- ✓ **統合手続きの進捗**（S-4 提出が 2026 年 Q3 を超えて遅延しないか）
- ✓ **FY2026 ガイダンス 3.92~4.02 ドル**（下方修正は「保守的ガイダンス文化」の前提崩壊）

この章のまとめ

- 判定: Hold (確信度: 中)、目的別ではインカム ◎ / クオリティ ○ / グロース ○ / バリュー △ / 短期 △
- 管理水準は目標 94.6 ドル / 損切り 78.86 ドル、監視は受注残・金利・空売り残
- 統合承認と金利低下が確認できれば、判定を Buy 側へ見直す余地があります
- 専門用語は §11 用語集、出典は §12 参考資料をご参照ください

11. 用語集

主要用語

FPL(Florida Power & Light)	NextEra Energy 傘下のフロリダ州規制電力会社。米国最大級の電力会社で、グループ利益の過半を稼ぐ安定収益源。
NEER(NextEra Energy Resources)	NextEra Energy 傘下の競争発電事業。風力・太陽光・蓄電池を全米で開発する世界最大級の再エネ事業者。
Dominion Energy	バージニア州を地盤とする大手電力会社。2026 年 5 月に NextEra Energy との統合に合意した。
規制資本(レートベース)	規制当局が電気料金の算定基礎として認める資産。規制電力会社の利益は「規制資本 × 許容 ROE」でほぼ決まるため、その成長率が利益成長の予測値になる。
許容 ROE	規制当局が電力会社に認める自己資本利益率。FPL は 2029 年まで 10.95% が認可されている。
調整後 EPS	一時的な評価損益（金利ヘッジの時価変動など）を除いた 1 株利益。NEE が業績見通しと報酬評価の軸に使う指標。
配当割引モデル(DDM)	将来の配当を割引率で現在価値に換算して株式の妥当価格を求める手法。配当成長率と割引率の差が小さいほど、前提変化に敏感になる。
逆 DCF	現在の株価から逆算して「市場が織り込んでいる成長率」を求める手法。会社計画と比べることで、株価の楽観・悲観バイアスが分かる。
株主資本コスト	投資家が株式保有のリスクに見合うとして要求する年率リターン。本レポートでは 7.1% を使用。
BOC(建設開始、Beginning of Construction)	米国の再エネ税額控除で適用資格を判定する「建設を開始した日」の認定基準。2026 年 7 月 4 日までの着工が経過措置の分水嶺。
0BBBA	2025 年に成立した米国の大型財政法。風力・太陽光の税額控除（45Y/48E）に運転開始期限を設けた。
45Y / 48E	米国のクリーン電力税額控除の条文番号。45Y は発電量ベース、48E は投資額ベースの控除。
S-4	米国で株式交換を伴う企業統合の際に SEC へ提出する登録届出書。統合手続きの最初の正式関門。
リバース解約金(リバース・ターミネーション・フィー)	買い手側の事情（規制承認の不取得など）で統合が破談になった場合に、買い手が売り手へ支払う違約金。
系統連系待ち(interconnection queue)	新しい発電所が送電網への接続を申請してから承認されるまでの待ち行列。米国では中央値 4 年超かかる。

PPA(電力販売契約)

発電事業者が需要家や電力会社と結ぶ長期の電力売買契約。価格上昇は発電事業者に有利。

空売り残高(ショート・インタレスト)

借株で売られたまま買い戻されていない株数。増加は弱気見通しの積み上がりを示すが、急反発時の買い戻し燃料にもなる。

12. 参考資料

情報の出典

● 一次資料 (Tier A)

73% (214件)

● 公的・市場データ (Tier B)

27% (80件)

本レポートで出典タグを付した情報 294 件の品質内訳です。一次資料 (Tier A) の比率が高いほど、公開情報から再現しやすい構成です。

[Tier A BLS CPI-U CUUR0000SA0 \(public API、2026-06-10 公表分\) ↗](#)

[Tier A Constellation Energy 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\) ↗](#)

[Tier A Constellation Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Exhibit 99.1、2026-05-11\) ↗](#)

[Tier A Constellation プレスリリース \(Calpine 買収完了、8-K Exhibit 99.1\) ↗](#)

[Tier A DOE Office of Nuclear Energy: NRC Approves NuScale Power's Up-rated Small Modular Reactor Design ↗](#)

[Tier A DOE Office of Nuclear Energy: NRC Dockets Construction Permit Application for TVA Small Modular Reactor ↗](#)

[Tier A Dominion Energy 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\) ↗](#)

[Tier A Dominion Energy Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Exhibit 99、2026-05-01\) ↗](#)

[Tier A Duke Energy 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\) ↗](#)

[Tier A Duke Energy 8-K Exhibit 99.1 \(Piedmont TN 売却プロフォーム、2026-04-01\) ↗](#)

[Tier A Duke Energy Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Exhibit 99.1、2026-05-05\) ↗](#)

[Tier A EIA Annual Energy Outlook 2026 ↗](#)

[Tier A EIA Cushing, OK WTI Spot Price FOB \(月次\) ↗](#)

[Tier A EIA Henry Hub Natural Gas Spot Price \(月次\) ↗](#)

- [Tier A EIA Press Release: EIA forecasts strongest four-year growth in U.S. electricity demand since 2000 \(2026-01-13\) ↗](#)
- [Tier A EIA Short-Term Energy Outlook ↗](#)
- [Tier A EIA Today in Energy: Data center server energy use grows across the commercial building stock ↗](#)
- [Tier A EIA Today in Energy: New U.S. electric generating capacity expected to reach a record high in 2026 \(2026-02-20\) ↗](#)
- [Tier A FINRA Consolidated Short Interest \(NEE、NYSE 上場分、隔週公表\) ↗](#)
- [Tier A FPL Newsroom: Florida regulators approve FPL rate agreement \(2025-11-20\) ↗](#)
- [Tier A FRB FOMC statement \(2026-04-29\) ↗](#)
- [Tier A FRB Summary of Economic Projections \(2026-03-18\) ↗](#)
- [Tier A IRS Notice 2025-42 \(Sections 45Y and 48E Beginning of Construction\) ↗](#)
- [Tier A LBNL: Queued Up 2025 Edition \(2025-12-15\) ↗](#)
- [Tier A LBNL: Utility-Scale Solar 2025 Data Update ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy 10-Q Q1 FY2026 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy 8-K 2026-05-18 \(SEC EDGAR、Item 1.01 + Ex-99.1\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy 8-K 2026-05-18 \(SEC EDGAR、Item 5.02\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy 8-K \(合併契約、2026-05-18 提出\) Item 1.01 ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy DEF 14A 2026 \(SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy FY2025 Q4 決算リリース \(8-K Ex-99、2026-01-27\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy May 2026 Investor Presentation p.12 + ACP 年次統計 \(industry.md \[^14\]\[^15\] 参照\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy Q1 2026 Earnings Conference Call Slides p.19 \(企業 IR\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy Q1 2026 News Release \(8-K Exhibit 99 / 企業IR\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Ex-99、2026-04-23\) ↗](#)
- [Tier A NextEra Energy Q4/FY2025 News Release \(8-K Exhibit 99 / 企業IR\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR NEE 8-K Exhibit 99.1 \(統合プレスリリース 2026-05-18\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR NEE 8-K Exhibit 99.2 p.42 Path to Close \(2026-05-18\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR NEE 8-K Exhibit 99 \(Q4 2022 決算リリース 2023-01-25 / Q4 2023 決算リリース 2024-01-25\) ↗](#)

- [Tier A SEC EDGAR NEE 8-K Exhibit 99 \(Q4 2024 決算リリース 2025-01-24\) および NextEra Energy Q4 2025 News Release](#)
- [Tier A SEC EDGAR SCHEDULE 13G \(Vanguard Capital Management、2026-04-30 提出、acc 0002100119-26-000865\) ほか NEE 宛 13G/13G/A](#)
- [Tier A SEC EDGAR XBRL companyfacts CIK0000753308 \(CommonStockDividendsPerShareCashPaid 2007-2025\)](#)
- [Tier A Southern Company 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\)](#)
- [Tier A Southern Company Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Exhibit 99\)](#)
- [Tier A Vistra 10-K FY2025 \(SEC EDGAR XBRL companyfacts\)](#)
- [Tier A Vistra Q1 FY2026 決算リリース \(8-K Exhibit 99、2026-05-07\)](#)
- [Tier A Vistra プレスリリース \(Lotus ガス発電所買収完了、8-K Exhibit 99.1\)](#)
- [Tier A 米財務省 Daily Treasury Par Yield Curve Rates](#)
- [Tier B ACP: Clean Power Adds Record 50 GW in 2025 As Surging Electricity Demand Accelerates](#)
- [Tier B ACP: Clean Power Grew U.S. Economy by \\$150B and Supported 1.4M Jobs in 2025](#)
- [Tier B Bloomberg](#)
- [Tier B Bloomberg](#)
- [Tier B Bloomberg](#)
- [Tier B BloombergNEF プレスリリース: Lithium-Ion Battery Pack Prices Fall to \\$108 Per Kilowatt-Hour \(2025-12-09\)](#)
- [Tier B EEI Industry Capital Expenditures 2015-2029](#)
- [Tier B EEI: Electric Companies to Invest Nearly \\$208B in 2025 to Strengthen Grid and Drive Economic Growth \(2025-10\)](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B Reuters](#)
- [Tier B SEIA / Wood Mackenzie: Solar Market Insight Report 2025 Year in Review](#)
- [Tier B SEIA: U.S. Adds 43 GW of New Solar Capacity in 2025 \(Solar Market Insight 2025 Year in Review\)](#)
- [Tier B Wall Street Journal](#)
- [Tier B Wall Street Journal](#)
- [Tier B Wall Street Journal](#)
- [Tier B Wall Street Journal](#)
- [Tier B Yahoo Finance CEG 終値 + SEC XBRL 株式数から算出](#)
- [Tier B Yahoo Finance D 終値 + SEC XBRL 株式数から算出](#)
- [Tier B Yahoo Finance DUK 終値 + SEC XBRL 株式数から算出](#)
- [Tier B Yahoo Finance NEE / ^GSPC 株価履歴](#)
- [Tier B Yahoo Finance NEE / XLU 株価履歴](#)

[Tier B Yahoo Finance NEE 終値 + 10-Q 配当実績から算出](#) ↗

[Tier B Yahoo Finance SO 終値 + SEC XBRL 株式数から算出](#) ↗

[Tier B Yahoo Finance VST 終値 + SEC XBRL 株式数から算出](#) ↗

[Tier B Yahoo Finance 米10年債利回り ^TNX \(2026-06-10 終値 4.542%\)](#) ↗

[Tier B ロイター \(日本語版\)](#) ↗

[Tier B 日本経済新聞 電子版](#) ↗

[Tier B 日本経済新聞 電子版](#) ↗

[Tier B 時事通信 \(WSJ配信\)](#) ↗

本レポートは、特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨することを目的としたものではなく、執筆者が個人的に整理した投資調査メモを共有するものです。記載内容は作成時点で入手可能な公開情報に基づいていますが、情報の正確性・完全性・適時性について保証するものではありません。

投資判断はすべて読者ご自身の責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者は一切の責任を負いません。為替変動・流動性低下・規制変更・地政学的事象などにより、想定外のリスクが顕在化する可能性があります。

記載される目標株価・損切ライン・タイムホライズン等は、公開時点での執筆者の見解であり、将来の運用成果を保証するものではありません。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。